

学校が育てたい生徒の姿から学校行事の改善を図る研究
— P D C Aサイクルの確立を促す学校行事改善ツールの開発実践例 —
高等学校支援課 長期研修員 内藤 英伍

1 主題設定の理由

平成31年度より一部で先行実施している高等学校学習指導要領（以下、「学習指導要領」という。）においては、特別活動の改善の必要性が示されている。中でも、特別活動の「内容や指導のプロセスの構造的な整理」が必要であると記されている。また、学習指導要領（平成30年告示）では、各学校が教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの推進も求められている。特別活動において、指導計画及び実践のP D C Aサイクルを確立することは、学校における今日的な課題と言える。

特別活動の中でも特に、学校行事は、令和2年以降の新型コロナウイルス感染症拡大の影響で難しい情勢にある。新型コロナウイルス感染症対策（以下、「感染症対策」という。）として中止や規模縮小が相次ぐ中で、教員から「本当に必要なものだったかを問い直す機会となった」¹という意見が出た。一方で、生徒や保護者から「文化祭など学校行事が楽しみで学校を選んだのだから、学校は安易に中止にしないでもらいたい」²という声もあった。

そのような状況で、文部科学省（2020）は次の指摘をしている。「限られた時間の中で学校における学習活動を重点化する必要が生じたが、そのような中でもまず求められたのは、学級づくりの取組や、感染症対策を講じた上で学校行事を行うための工夫など、学校教育が児童生徒同士の学び合いの中で行われる特質を持つことを踏まえ教育活動を進めていくことであり、これらの活動を含め、感染症対策を講じながら最大限子供たちの健やかな学びを保障できるよう、学校の授業における学習活動の重点化や次年度以降を見通した教育課程編成といった特例的な対応がとられた」³。今日直面する情勢下でも、感染症対策等を含む学校行事の改善は求められており、その方法を明らかにする必要性が高まっている。

また、文部科学省（2020）は、「我が国の学校に特徴的な特別活動が、子供たちの円滑な学校への復帰や、全人格的な発達・成長につながる側面が注目された」点についても指摘しており⁴、特別活動がもたらす教育的価値を認めている。そして、学習指導要領（平成30年告示）解説特別活動編では、特別活動の中でも学校行事について、「他の教育活動では容易に得られない教育的価値を実現する」特質を持つと記されている。以上より、特別活動の中でも特に学校行事に着目し、カリキュラム・マネジメントの視点に立って、学校が育てたい生徒の姿から学校行事の改善を図るプロセスを示す必要性を感じ、主題を設定した。

2 研究の目的

本研究では、学習指導要領で求められている学校行事の改善を進めるにあたり、学校が育てたい生徒の姿から設定した目標を共有し、行事に対する取組状況を振り返るプロセスを支援する学校行事改善ツールを開発したい。そして、その学校行事改善ツールの実践により、生徒の目標達成状況を確認できる学校行事の改善が実現することを明らかにしたい。

3 研究の方法

- (1) 学習指導要領から、高等学校における学校行事の概要をまとめる。
- (2) 県内高等学校生徒指導主事に質問紙調査を実施し、学校行事の意義や改善の必要性及び課題を確認する。
- (3) (1)及び(2)を参考に、PDCAサイクルの確立を促す学校行事改善ツールを開発する。
- (4) 研究協力校で毎年実施されている三つの学校行事（学校祭、創立記念行事、防災訓練）で、本研究で開発する学校行事改善ツールを実践する。
- (5) 学校祭と防災訓練を視察し、実際の様子を把握して改善の在り方を考察する。
- (6) 実践後に質問紙調査を実施し、実践の結果と合わせて本研究の成果を検証する。

4 研究の内容

(1) 高等学校における学校行事の概要

学校行事の改善を図る上で学校行事を理解するため、学習指導要領（平成30年告示）から学校行事の概要をまとめた。学校行事は特別活動を構成する一つであるため、特別活動と学校行事の目標を示す（表1）。また、学校行事の内容とねらいも示す（表2）。

表1 学習指導要領（平成30年告示）における特別活動と学校行事の目標

特別活動	集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。 (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。 (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。 (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。
学校行事	全校若しくは学年又はそれらに準ずる集団で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

表2 学習指導要領（平成30年告示）における学校行事の内容とねらい

項目	内容	ねらい
(1)	儀式的行事	学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるようにすること。
(2)	文化的行事	平素の学習活動の成果を発表し、自己の向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりするようにすること。
(3)	健康安全・体育的行事	心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにすること。
(4)	旅行・集団宿泊的行事	平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。
(5)	勤労生産・奉仕的行事	勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、就業体験活動などの勤労観・職業観の形成や進路の選択決定などに関する体験が得られるようにするとともに、共に助け合って生きることの喜びを体得し、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようにすること。

特別活動の目標は、特別活動を構成するホームルーム活動、生徒会活動及び学校行事の三つを総括する目標であり、学校行事の目標の基となるものである。特別活動では、人間関係形成、社会参画、自己実現の三つの視点を重要な要素として生徒の資質・能力の育成を目指しており、学校行事でも特別活動の目標に掲げる資質・能力の育成が目指

されている。その特別活動と学校行事の目標及びねらいを踏まえて、各学校における行事の目標が設定される必要がある。そこで、後述する学校行事改善ツールの中に、目標設定の際に表1と表2を確認できる参考資料を挿入することにした。また、表2で示す行事の内容については、後述する研究協力校の学校行事の概要において参照されたい。

(2) 県内高等学校生徒指導主事対象質問紙調査の実施

学校行事の意義や改善の必要性及び課題を確認するため、教員が持つ行事への意識を調査した。生徒指導提要では、「特別活動の目標を実現するには生徒指導の充実が不可欠」⁵であり、「生徒指導の充実に果たす学校行事の意義は大きいもの」⁶とある。そこで、令和3年5月27日から12月10日に開催された生徒指導地区連絡協議会の場で、生徒指導主事を対象に学校行事の改善に関する質問紙調査を実施した。なお、調査は4件法と自由記述法で行い、109校（公立全日制69校、公立定時制15校、公立通信制1校、私立全日制21校、特別支援学校3校）から回答を得た。結果は、表3、表4及び表5に示す。

表3 生徒指導主事質問紙調査結果 (n=109)

(当てはまる		4		3		2		1		当てはまらない		(%)			
		肯定		否定		4		3		2		1			
① 学校行事を通して生徒の成長を見取ることができている。		88		12		41		47		10		2			
② 学校行事について、改善の必要性を感じている。		74		26		16		59		20		6			
③ 学校行事を改善するための議論の場が設けられている。		67		33		23		44		32		1			
④ 学習指導要領を踏まえ、「学校行事で生徒に付けたい力」が教員に共有されている。		59		41		12		47		34		7			
⑤ 学習指導要領を踏まえ、「学校行事で生徒に付けたい力」が生徒に共有されている。		43		57		6		37		44		13			
具体的改善点(%)															
		1		2		3		4		5		6		7	
※②で4,3を回答した場合 具体的な改善点(複数回答可)		準備		担当		予算		数		日程		運営		その他	
1準備 2担当組織 3予算 4行事の数 5日程 6運営方法 7その他		29		21		4		36		39		44		5	

表3について、「①学校行事を通して生徒の成長を見取ることができている」の質問に対して肯定群（4，3）が88%であり、学校行事に強く価値を感じる事が分かった。

一方、「②学校行事について、改善の必要性を感じている」の質問に対しては肯定群が74%であり、改善意識は高かった。その「具体的な改善点」（複数回答可）として、「運営方法」と答えた割合が44%と最も高く、次いで「日程」で39%、その次が「行事の数」で36%だった。運営方法と日程に関しては、「働き方改革」の推進で行事のスリム化を検討する観点から推察される。また、調査日の8日中6日を含む5月27日から9月8日が県新型コロナウイルス感染症警戒レベル4（県内警戒、県外警戒）以上の期間であり、県立学校に対する学校行事の中止や延期などの活動制限も影響したと推測する。

また、「③学校行事を改善するための議論の場が設けられている」の質問では、肯定群が67%であり、②と比べると議論の場は少なかった。さらに、「学校行事で生徒に付けたい力」に関する質問（④、⑤）について、共有していると答えた肯定群が教員間で59%、教員と生徒の間で43%にとどまることは、学校行事の改善に向けた課題と言える。

表4では、「学校行事で生徒に付けたい力」に関する質問④と⑤について強い相関が見られた。共有が進んでいる学校では、教員にも生徒にも及んでいる傾向が見られた。

表5の自由記述では、各校の実態を踏まえた多様な意見が表れた。意見を三つに大別すると、創意工夫や発展的継続を目指す改善指向、規模縮小や予算削減に向かう精選指

向、行事の意義を重視して精選指向に反対する現状維持指向の記述があった。これらの記述には各校の多様な実態が示されており、それらの実態に応じた改善が必要と言える。

表4 生徒指導主事アンケートの相関係数

	①	②	③	④	⑤
①					
②	0.13				
③	0.16	-0.08			
④	0.39	-0.22	0.47		
⑤	0.31	-0.23	0.28	0.72	

※相関が強い0.7以上の項目を網掛けで示す。

表5 生徒指導主事アンケートの自由記述（一部抜粋）

改善	学校行事をより生徒主体で行っていきたいと考えている。
	これから問題・課題提起をして議論の場を増やしていこうと考えています。
	文化祭の内容、体育祭の予行練習等、コロナ対応をしていく中で今までのやり方を見直すきっかけとなった。
精選	行事等の精査、運営方法の見直し。
	何を残し何を継続していくのか、時期的にも、準備が十分にできないところがある。カリキュラムの関係も考えると厳しくなってきた。
	生徒数減にともない、多くの学校行事のほか、部活動だけではなく委員会の統合に着手している。予算も限られてくるなか、学校行事の見直し、縮小を検討している。
現状維持	本校のような専門校は行事の持つ意味は非常に大きいのでできる限り減らさない方向で進んでほしい。

(3) 学校行事改善ツールの開発

(2)の調査により、学校行事の実施において、議論の場の存在と教員及び生徒への目標共有が十分ではないことが分かった。そこで、本研究では、学校行事における目標設定、目標共有、取組状況の振り返りというプロセスの整理を支援する学校行事改善ツールを表計算ソフトで開発した。開発にあたっては、カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえて、担当教員や関係教員が学校と生徒の実態に応じてPDCAサイクルを確立でき、学校と生徒への理解を深められることを企図した。そこで、学習指導要領（平成30年告示）解説特別活動編の「学校行事における学習過程（例）」⁷（図1）にある「①行事の意義の理解」と「⑤振り返り」に着目し、その過程を踏まえた。特に、「①行事の意義の理解」の活動内容にある目標の設定では、「学校行事は、各学校の創意工夫を生かしやすく、特色ある学校づくりを進める上でも有効な教育活動である」⁸という点、「学校の教育目標の実現を図る教育活動の一つとして十分に検討することが大切である」⁹という点を考慮し、担当教員が学校経営計画を基に目標設定するように設計した。また、教員が行事の企画・運営を振り返る観点では、行事の計画的実施から成果を挙げる具体的手法を示していることから、小林・熱海（1995）による「教師による個別行事の反省例」¹⁰（図2）の項目を参考にした。なお、学校行事改善ツールの種類と内容については表6のとおりだが、一番の特徴は行事の担当教員や関係教員が担当教員事前計画シート（図3）と学校行事チェックシート（図4）を入力して学校と生徒への理解を深める点にある。

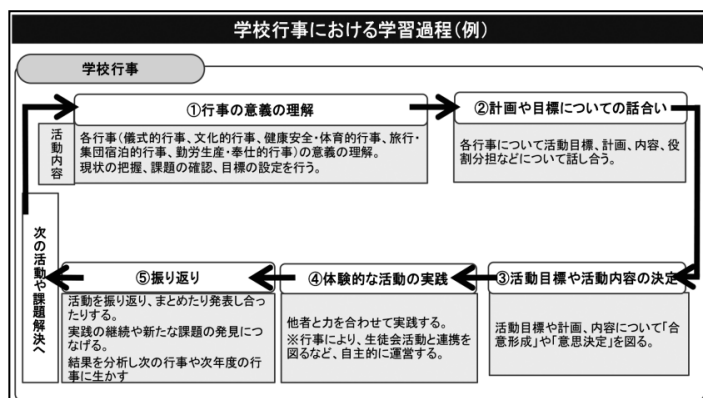


図1 学校行事における学習過程（例）

図3-4 教師による個別行事の反省例

行事名（ ）	記入者（ ）
ね ら い	A 適切 B 改善の要あり
実 施 時 期	A 適切 B 不適切
実 施 学 年	A 適切 B やや不適当 C 不適当
場 所	A 適切 B やや不適当 C 不適当
日 程	A 適切 B 一部修正 C 不適当
経 費	A 適切 B 不足 C 過剰
時 間（事前）	A 適切 B 不足 C 過剰
（実施）	A 適切 B 不足 C 過剰
（事後）	A 適切 B 不足 C 過剰
内容（活動と方法）	A 適切 B 一部修正 C 不適当
（留意点）	A 適切 B 一部修正 C 不適当
（分担）	A 適切 B 一部修正 C 不適当
評 価	A 適切 B 一部修正 C 不適当
備考（改善点の記入）	

図2 教師による個別行事の反省例

表 6 学校行事改善ツールにおけるシートの種類と内容

シートの種類	内容
説明書	学校行事改善ツールの使い方についての説明を確認する。
目標設定参考資料	学習指導要領の抜粋を確認し、目標を設定する際の参考にする。
担当教員事前計画シート	学校経営計画の達成方法、取組目標、成果目標の該当箇所を転記した上で、学校経営計画に照らして行事の目標を記載する。 その目標をもとに、生徒が目標に対して行事を振り返る質問を3～5問作成する。※例「防災講話の内容を理解することができた。」
生徒アンケート	担当教員事前計画シートで作成した質問がそのまま反映される。それに加えて、自由記述で行事に対する自身の取組を振り返る。
教員アンケート	担当教員事前計画シートで作成した質問に「生徒は」という主語を加えて、生徒の目標の達成状況を教員から見て評価する。企画・運営について、「準備」、「担当組織」、「予算」、「日程」、「対象生徒」、「場所」、「用具」、「労力に対する成果」が適切だったかを評価する。自由記述で生徒のあらわれに対する具体的所見と企画・運営に対する具体的意見を回答する。
生徒アンケート集計	アンケート結果を入力し、結果が「学校行事チェックシート」に反映される。
教員アンケート集計A	アンケート結果を入力し、結果が「学校行事チェックシート」に反映される。集計Aは生徒のあらわれに関する結果の集計。
教員アンケート集計B	アンケート結果を入力し、その結果が「学校行事チェックシート」に反映される。集計Bは企画・運営の実際に関する結果の集計。
学校行事チェックシート	担当教員事前計画シートの内容とアンケートの結果のうち、数値部分が反映される。それらを確認し、質問に答えながら評価を進める。
学校行事チェックシート別紙資料	担当教員事前計画シートの内容とアンケートの結果のうち、記述部分が反映される。数値だけでなく、より詳細な評価を行う際に参考にする。

学校行事評価ツール 担当教員事前計画シート

この用紙は、担当教員が生徒アンケートと教員アンケートを作成するためのものです。まず、学校経営計画書を用意してください。

行事名 年度

1 今回の行事に該当する学校経営計画書の取組目標を転記してください。

2 今回の行事に該当する学校経営計画書の達成方法を転記してください。

3 今回の行事に該当する学校経営計画書の成果目標を転記してください。

4 上記1～3を踏まえて、今回の行事の目標は何ですか？

5 上記4を踏まえて、行事を振り返る生徒用質問を以下に3～5個作成してください。
※質問は、以下の6段階の選択肢から選んでもらう選択肢回答法を用います。
(当てはまる ← 6 5 4 3 2 1 → 当てはまらない)

1

2

3

4

5

6 今回の行事の目標を、教員と生徒に対してどのように共有しますか？

教員

生徒

7 行事後のアンケート対象

教員 ex)全職員 生徒 1年部

8 行事後の評価の予定(日程)

生徒アンケート 1・2年部 教員アンケート 1・2年部 会議

図 3 担当教員事前計画シート

学校行事チェックシート

行事名 年度

行事の目標

【1】学校経営計画との照らし合わせ

1 今回の行事に該当する学校経営計画書の取組目標

2 今回の行事に該当する学校経営計画書の達成方法

3 今回の行事に該当する学校経営計画書の成果目標

【2】目標の共有方法

教員

生徒

【3】行事の目標に対する生徒の自己評価と教員の見取りの状況 ※教員アンケートの主語は「生徒」

① 行事の目標を事前に十分理解していた。

②

③

④

⑤

⑥

理由

生徒アンケート結果 (当てはまる ← 6 5 4 3 2 1 → 当てはまらない)

平均	6	5	4	3	2	1	6-4	3-1	6-1
①	####	####	####	####	####	####	####	####	####
②	####	####	####	####	####	####	####	####	####
③	####	####	####	####	####	####	####	####	####
④	####	####	####	####	####	####	####	####	####
⑤	####	####	####	####	####	####	####	####	####
⑥	####	####	####	####	####	####	####	####	####

Q1 生徒の自己評価が低いものはどれか？
①・②・③・④・⑤・⑥

理由

Q2 生徒と教員の評価に相違がみられるのはどれか？
①・②・③・④・⑤・⑥

【4】教員の感じる企画・運営の実際 (当てはまる ← 6 5 4 3 2 1 → 当てはまらない)

① 準備は十分であった。(期間、機会など)	####
② 担当組織は適当であった。(所属、人数など)	####
③ 予算は適当であった。(数、出所など)	####
④ 日程は適当であった。(時期、日数など)	####
⑤ 対象生徒は適当であった。(所属、人数など)	####
⑥ 場所は適当であった。(広さ、広さなど)	####
⑦ 労力は適当であった。(種別、人数など)	####
⑧ 成果は労力に見合うものであった。	####
⑨ 自分は行事の目標を事前に十分理解していた。	####

Q3 教員の評価が低いものはどれか？
①・②・③・④・⑤・⑥・⑦・⑧・⑨

理由

【5】評価方法

行事後のアンケート対象 教員 0 0 0 生徒 0 0

行事後の評価の予定 教員アンケート 生徒アンケート 会議

Q4 【1】～【5】を総合的に判断して、この行事は継続するべきか？いいえ → 精選対象として議論

Q5 次年度(次回)に向けての改善案として何があげられるか？

改善案① 改善案② 改善案③

図 4 学校行事チェックシート

(4) 学校行事改善ツールの実践

実践は、研究協力校で令和3年6月から12月に行った。研究協力校は、創立84年の歴史を持つ普通科、商業科併設校である。行事の振り返りのアンケート対象は、生徒は入学後1年が経ち最も落ち着いて行事に臨める2年生198名とし、教員は2年部13名とした。

ア 研究対象とした学校行事の概要

まず、実践の対象とした行事の概要について以下に示す(表7)。今年度は、全て

の行事で感染症対策による大きな変更があった。学校祭では、文化の部の一般公開が中止され校内発表は例年の一日開催から半日開催に縮小した。創立記念行事は、校外活動の行き先が直前に横浜から山梨に変更した。防災訓練は、マンホールトイレ設営などの体験活動から、防災講話の受講に変更した。今年度の上記の変更は、次年度に向けた学校行事の改善を図る上で教員の意識に影響したと考えられる。

表 7 研究対象とした学校行事の概要

行事	日程	時程	行事の内容項目	行事の詳細
学校祭	6/3	9:30～11:30	(2) 文化的行事	文化の部校内発表（動画上映・展示発表）
	6/4	9:00～15:00	(3) 健康安全・体育的行事	体育の部（個人競技、クラス対抗競技）
創立記念行事	10/22	8:10～16:40	(2) 文化的行事	校外活動（山梨のテーマパークを訪れて自由行動）
			(4) 旅行・集団宿泊的行事	
防災訓練	12/17	8:50～10:15	(3) 健康安全・体育的行事	防災講話（東部地域局による配信の受講）

イ 学校行事改善構想図の共有

学校行事改善ツールの実践にあたり、学校行事を改善するプロセスを示す学校行事改善構想図を作成した（図 5）。構想図には、表 8 に示す手順を記した。この構想図を研究協力校の教員に全体説明会で共有し、研究に対する共通理解を深めた。



図 5 学校行事改善構想図

表 8 学校行事改善ツールの活用手順

	活用手順の内容	関わる教員及び組織
(1)	担当教員事前計画シートの実施	担当教員
(2)	担当教員事前計画シートの入力内容をもとに生徒アンケート、教員アンケートの作成	担当教員
(3)	生徒、教員との目標共有	全職員
(4)	学校行事の実施	担当組織、担当教員
(5)	生徒アンケート、教員アンケートの実施	担当組織、担当教員
(6)	アンケート結果をもとに生徒アンケート集計、教員アンケート集計の作成	担当教員
(7)	アンケート集計をもとに学校行事チェックシートの作成	担当組織、担当教員
(8)	学校行事チェックシートをもとに継続（改善）か精選の判断	全職員

ウ 目標設定の支援

まず、行事前の段階で、担当教員が図 3 の担当教員事前計画シートの 1 から 5 に取り組んで目標を設定した（表 9）。なお、研究協力校では、行事の実施要項に目的が記載されていたため、目的も合わせて示す。また、目標の設定に際しては、研究協力校の学校経営計画の教育目標及び取組目標が参照された（表10）。そこで、表 9 には参照された表10の学校経営計画の取組目標も合わせて示す。

研究協力校では、令和 2 年度は行事の実施要項に目的のみが記載されていた。目的

では、「学校の活性化」、「精神を体得する」、「防災意識を高める」など抽象的な文言が記されており、より具体的な目標については、クラス担任による口頭説明などで示されていた。令和3年度は、研究の実践により、学校経営計画を基に生徒が到達を目指す目標が実施要項に記された。目標は、行事後の振り返りを踏まえた具体的内容となっており、PDCAサイクルを確立するための要素となった。

表9 研究協力校の各行事における目的と目標及び参照された取組目標

行事		令和2年度	令和3年度	取組目標
学校祭	目的	専門委員会・部活動・有志の発表を通じて、日頃の活動の成果を発揮する機会を設け、 <u>学校の活性化をはかる</u> 。また、生徒の自主性・計画性・協調性を高める機会とする。	文化部の発表を通じて <u>学校の活性化をはかる</u> 。また、HR企画・有志発表などにおいてもHRの団結・仲間意識を持つことにより、協調性・計画性・自主性などの生徒の資質向上をはかる。	
	目標		所属集団における活動への参加を通し、自分の役割を果たすことで、自己有用感を高め、達成感を得る。また、よりよい人間関係を築いたり、集団としての質を高めたりする。	ア オ
創立記念行事	目的	覇気、信念、明朗の本校の校訓に基づく <u>精神を体得</u> する。集団行動により、全校生徒の団結と互助の精神を学ぶ。創立記念行事を通じ、「岳南に人材を」という、本校創立者望月軍四郎先生の創立目的に対する生徒の自覚を促す。		
	目標		集団での体験的な校外活動を通して『覇気・信念・明朗』の校訓を主体的に実践することで、公衆道徳を理解し、多様な他者や友人とよりよい人間関係を形成しようとする態度を育てながら、今後の学校生活に対する意欲を向上させる。	ア
防災訓練	目的	防災講話や実践的な防災体験を通して、生徒や教職員の <u>防災意識を高める</u> 。		
	目標		災害時に必要となる防災講話の内容を理解するとともに、防災のために必要な知識や行動についてこれまでの自分を振り返り、災害時にとるべき行動について考える機会とする。	オ カ

表10 研究協力校の学校経営計画における教育目標と取組目標

(1)教育目標 校訓「覇気・信念・明朗」のもと、「文武両道」の精神で勉学と諸活動に励む以下の生徒を育成する。 ア 心身ともに健全で活力と情操に富み、ひたむきに努力する生徒 イ 主体的に探究し学び続けることで、進路実現を図る生徒 ウ 自立し、責任をもって社会に貢献しようとする生徒 上記の生徒を育成するために教育環境を充実させて、より地域から親しまれ信頼される学校を目指す。
(2)取組目標 ア 規律・礼節、規範・帰属意識を醸成し、主体的で健全な生活態度を育成する。 イ 自ら学ぶ態度・確かな学力を培い、思考力・表現力、探究意欲を醸成する。 ウ 学んだ知識や技能を実際に活用した実践的商業教育を推進する。 エ 自己理解・目的意識を高める系統的な指導を通して、個に応じた進路実現を支援する。 オ 多様な活動への参加を通して、自己有用感、豊かな人間性、共生意識および社会的資質・能力を育成する。 カ 外部諸機関・地域との連携や積極的な広報活動を通して、開かれた学校づくりを推進する。 キ 職員の専門性・資質の向上、適正な服務、適切な教育環境の整備を図り、安全で信頼される学校づくりを推進する。 ク 教職員の多忙化解消に向け、「業務改善」に取り組む。

エ 目標共有の支援

行事の実施に際して行う目標共有については、担当教員が目標設定と同時期に図3の担当教員事前計画シートの6に取り組むことで共有方法を決定した(表11)。

その結果、生徒への目標共有では、研究協力校で導入済の学校ICT化をサポート

する教育プラットフォーム「Classi」ⁱを活用した。Classiは生徒の所有する個人端末に目標を配信できる（以下、「Classi配信」という。）ため、行事の前にClassi配信によって目標共有を行い、生徒は各自の個人端末で目標を確認した。また、教員に対しては、学年会議や職員会議で担当教員が口頭説明を行うことを中心とした。

表11 生徒への目標共有の方法及び教員への目標共有の方法

行事	生徒への目標共有の方法			教員への目標共有の方法		
学校祭	実施要項掲示			実施要項配布		
創立記念行事	実施要項配布	Classi配信	担任説明	実施要項配布	学年会議	職員会議
防災訓練	実施要項掲示	Classi配信	事前学習	実施要項配布	学年会議	職員会議

オ 振り返りの支援

※網掛けは研究による支援の未実施を示している。

行事の後の段階で、担当教員が行事の振り返りを行うために生徒と教員に対してアンケートを実施し、生徒アンケート結果と教員アンケート結果をそれぞれまとめた（表12、表13）。生徒アンケート及び教員アンケートは、担当教員が作成した質問を中心とした6件法または4件法と自由記述によるもので、行事での生徒と教員の評価が可視化されて改善のための材料となった。なお、アンケートの時期と対象者は行事前に担当教員が図3の担当教員事前計画シートの6と7で決定する。

表12 生徒アンケート結果

行事	自己評価が低かった振り返り項目	自由記述 AIテキストマイニング ⁱⁱ 結果
学校祭	「〇〇祭を通して、<u>〇〇高校の生徒であることをより前向きに感じ</u>、自信や誇りを深めることができた。」 「<u>集団の中で、自分で見つけて、活動の計画を立て、意欲的に活動</u>することができた。」	（質問文：目標に対して自分がどうだったか） 体育の部では、<u>みんなで協力することができてよかった</u>。主に体育祭の方で力を発揮することができたと思う。しっかり自分の役割を理解し、実行することができたのでよかった。
創立記念行事	「<u>行事の目標を事前に十分理解</u>していた。」 「<u>創立記念行事を通して、校訓『覇気・信念・明朗』への理解を深め、今後の学校生活に生かそうとする態度を身に付けることができた</u>。」	（質問文：これまでより成長し、特に達成できた点） <u>時間を守って行動することが出来た。また、公衆道徳を深く理解することができた</u>。友達との協力が普段よりも出来た。 （質問文：十分な達成ではないため、今後に生かしたい点） 逆算して時間にゆとりを持って行動すること。計画がしっかりと立てられていなかった点。他者との関係は深めることができなかった。今後は事前によく調べてスムーズに行動したい。
防災訓練	「<u>行事の目標を事前に十分理解</u>していた。」 「<u>防災のために必要な知識や行動についてこれまでの自分を振り返ることができた</u>。」	（質問文：これまでの経験をもとに、今回の行事で学べた点） <u>自分が動かなければならないという気持ちを持っていきたい</u>。ハザードマップや高校生の役割を教わり分かりやすかった。 （質問文：今回の行事に対する自分の対応） <u>しっかりと最後まで集中して話を聞くことができた</u>。<u>災害はいつ起こるかわからないので真剣に聞いた</u>。 （質問文：今回の経験を踏まえて、今後に生かしたい点） 危険な場所を確認しておきたい。防災に対する意識を高く持ち地震があったときのために備蓄をしっかり準備しておく。

表12の生徒アンケート結果では、「自己評価が低かった振り返り項目」から生徒の課題を確認でき、行事の改善点を考察できる。また、「自由記述」からは生徒が目標を達成することができたプロセスや今後の見通しを把握でき、学校行事の意義を確認

ⁱ Classi は Classi 株式会社の登録商標である。

ⁱⁱ 株式会社ユーザーローカルが無償提供するAIテキストマイニングのハイライト機能を使用した。

できる。

実際の結果を見ると、学校祭では、他者と協力できたと振り返る一方、学校への帰属意識の高まりを示す回答は少なかった。創立記念行事では、時間を守ることや公衆道徳を理解できたと振り返る一方で、校訓に対する理解を深めることはできなかったという回答が多く見られた。防災訓練では、災害を自分に身近な危険として捉え今後を見据えることはできたと振り返ったのに対して、これまでの自分を振り返る思考にまでは至らなかったという回答が目立った。また、創立記念行事と防災訓練では、共に目標の事前の理解が十分ではなかったという振り返りが見られた。これらの結果は、それぞれの行事の改善点を考察する上で必要な情報となった。

表13 教員アンケート結果

行事	生徒の振り返りと相違があった教員の見取り項目	評価が低かった企画・運営の項目	自由記述（一部抜粋） （企画・運営についての具体的意見）
学校祭	「教員の見取りの状況」全5問で教員は肯定群100%、否定群0%に対し生徒は否定群15%	・「準備は十分であった」 ・「担当組織は適当であった」	・担当の先生の負担が大きかった ・準備の時間をとってもよかった ・ネット環境とiPad等の機材が揃っていると尚良かった
創立記念行事	「校外活動として創立記念行事を振り返り、より良い修学旅行を目指す機会とすることができた。」の評価が教員は低く、生徒は高い。	・「準備は十分であった」 ・「担当組織は適当であった」	・担当の先生の負担が大きかったのではないかな。 ・実施決定が遅かったので、企画内容を練るほどの準備はしていない。 ・校訓の内容を深める意識は、生徒も教員間でも見られなかったように思われる。
防災訓練	「今後起こりうる災害時のとるべき行動について考えるきっかけにすることができた。」の評価が教員は低く、生徒は高い。	・「準備は十分であった」 ・「成果は労力に見合うものであった。」	・熱海の事例を出して説明を受けたことが具体的に分かりやすかったと思う。 ・行事の目標を共有することが徹底できていない。

表13の教員アンケート結果では、「生徒の振り返りと相違があった教員の見取り項目」から生徒の自己評価と教員の見取る評価の差を確認できる。また、「評価が低かった企画・運営の項目」と「自由記述」からは、教員視点の行事の改善点分かる。

実際の結果を見ると、学校祭では、生徒の回答には目標達成状況に対する否定群が見られた中で、教員には否定群が見られず、教員が生徒を見取る仕組みを再考する必要性が考えられる。また、担当組織に対する負担の偏りについての意見が多く見られたことから、適切な役割分担の必要性が伺える。創立記念行事では、生徒がより良い修学旅行を目指す機会にできたと自己評価した一方で、教員は不十分だと評価し、両者が校外活動で重視する観点の不一致が伺える。また、準備の不十分さに対する指摘が目立ったが、これは感染症対策による直前での訪問先の変更が影響したと考えられる。防災訓練では、生徒が今後の見通しを持てていると自己評価した一方で教員は不十分と評価しており、行事の成果としての生徒の成長に対しても低い評価だったことから、教員が成果を見取る材料が不足している可能性が推察される。

カ 改善の支援

行事の後、まず担当教員が図4の学校行事チェックシートに取り組んだ。学校行事チェックシートには、シートの上半分に行事の目標や共有方法、生徒アンケート結果及び教員アンケート結果が反映され、下半分にその結果に対するQ1からQ5の質問

が掲載されている。担当教員はその質問に順番に答えて、改善案を書き出した。そして、その改善案が担当教員の所属する担当組織で検討されて、次年度に向けた最終的な改善案とされた（表14）。なお、表14には改善案の根拠となった生徒の振り返り項目と表10の学校経営計画も合わせて掲載した。表14のように学校経営計画と生徒の振り返りが基となった改善案は、生徒に示した目標に対して達成が不十分だった点の改善を図る具体案となった。学校祭では、目標の「帰属意識の醸成」が不十分だったことから、研究協力校にしかない個性を発揮できる企画として、併設の特別支援学校との相互発表が提案された。創立記念行事では、今回の内容とされた校外活動が「校訓への理解を深める」ものではないとして、「OBを招いた講演会」が企画された。それと合わせて、校外活動の意義を人間関係の構築を促す好機と捉え直し、新たな学校行事として4月に遠足を実施することが構想された。防災訓練では、生徒の過去の振り返りが不十分だった点から、ワークシートの活用などが提案された。

表14 改善案と根拠となった生徒の振り返り項目、学校経営計画

行事	改善案	改善案の根拠となった生徒の振り返り項目	改善案の根拠となった学校経営計画
学校祭	①〇〇高校にしかない個性を発揮できる企画の検討 …〇〇高校に併設の富士特別支援学校富士宮分校との相互発表	「〇〇祭を通して、〇〇高校の生徒であることをより前向きに感じ、自信や誇りを深めることができた。」	取組目標 ア「帰属意識を醸成」 （取組手段） 「帰属意識の醸成」
	②生徒も教員も参加する取組の検討 …クラス旗製作のように各HRで展示品などを作る企画や、教員も参加できる試みの検討	「集団の中で、他者の意見を自分の意見と同じように大切に、他者と協力して活動できた。」	取組目標 オ「社会的資質・能力を育成」
	③生徒の準備と教員の見取りがともに計画的に実施できるようにする …文化の部の準備としてLHRを2時間以上設ける	「集団の中で、自分にできることを見つけて、活動の計画を立て、意欲的に活動することができた。」	取組目標 オ「自己有用感・達成感、社会的資質・能力を育成」
創立記念行事	①校訓への理解を深めるための行事として企画内容を再検討 …校訓に対する理解を深めるための創立記念行事として、OBを招いた講演会の企画	「創立記念行事を通して、校訓『覇気・信念・明朗』への理解を深め、今後の学校生活に生かそうとする態度を身に付けることができた。」	取組目標 ア「規範・帰属意識を醸成」 （取組手段） 「校訓の精神を理解・体现」
	②行事前に目標周知の時間を確保 …学年集会で目標と意義を伝達	「行事の目標を事前に十分理解していた。」	
	③生徒と教員が校外活動及び修学旅行の目標を共有して認識を合致 …校外活動の前に修学旅行の目標について学年集会等を通して伝達	「校外活動として創立記念行事を振り返り、より良い修学旅行を目指す機会とすることができた。」	取組目標 ア「規律・礼節を醸成」 達成方法 「規範・帰属意識の醸成」
防災訓練	①教員の見取りがしやすい体験活動やグループ協議などを取り入れる。 …雨天時に室内で可能な搬送訓練など	「今後起こりうる災害時のとるべき行動について考えるきっかけにすることができた。」	取組目標 カ「開かれた学校づくりを推進」 （取組手段） 「校内防災体制の点検・整備」
	②ワークシートや感想発表など生徒がアウトプットできる場を作る。 …市のハザードマップを用いたグループ活動など	「防災のために必要な知識や行動についてこれまでの自分を振り返ることができた。」	取組目標 カ「開かれた学校づくりを推進」 （取組手段） 「校内防災体制の点検・整備」
	③目標に対応した質問への振り返りを教員がすぐ見られる仕組み作り …クラウドサービスの活用など	「行事の目標を事前に十分理解していた。」	

(5) 学校行事の視察

視察として、学校祭と防災訓練における生徒の様子を見てきた。その視察を通して、

アンケートによる数値や文章などの評価に加えて、生徒の表情や態度を見取る重要性を実感した。学校祭では、動画上映発表で会場の生徒による拍手と歓声があった。また、展示発表では、多くの生徒が優秀作品への投票を行っていた。一方、係がいない無人の展示室もあった。また、防災訓練では、津波被害の画像に前のめりになる生徒がいた。反対に、うつむく生徒に気づいた教員が声をかける場面もあった。これらの様子は、アンケートの数値や文章には表れない評価の材料である。アンケートでは可視化が難しい表情や態度の見取りが、学校行事を改善する評価につながることを示唆された。

(6) 研究実践後質問紙調査の実施

12月末に実施した研究実践後質問紙調査では、2年生148名から回答を得た。なお、質問紙調査は6件法と複数選択式を組み合わせで行った。回答結果を表15と表16に示す。

表15について、6件法で実施した全ての質問項目で、回答の肯定群（6，5，4）が9割を超えた。教員が行事の目標共有や振り返りを投げ掛けたことに対して、生徒は非常に前向きに受け止め、行事の取り組み方に良い影響があったことや自分自身の学びと成長を実感できている様子が伺える。中でも、「⑨行事を通して〇〇高校が目指す生徒の姿に対する理解が深まった」の94%が肯定群だったことから、行事の目標設定と共有の実践により生徒が学校経営計画の要旨への理解を深めていることが読み取れる。

表15 研究実践後質問紙調査結果（n=148）

	(当てはまる 6 5 4 3 2 1)						当てはまらない						(%)
	肯定	否定	6	5	4	3	2	1	肯定	否定	6	5	
① 行事の目標を事前に知ることにより前向きに取り組めた。	97	3	46	35	16	2	1	0	97	3	46	35	16
② 行事の目標を事前に知ること、行事で持つべき意識が明確になった。	97	3	46	37	14	2	1	0	97	3	46	37	14
③ 行事の目標を事前に知ること、行事での取り組み方に良い影響があった。	98	2	47	36	14	1	1	0	98	2	47	36	14
④ 行事の目標を事前に知ること、行事の振り返りに良い影響があった。	98	2	49	32	16	2	0	0	98	2	49	32	16
⑤ 行事の振り返りアンケートにより前向きに取り組めた。	94	6	53	27	14	4	1	1	94	6	53	27	14
⑥ 行事の振り返りによって、行事を通しての学びが理解できた。	95	5	53	31	11	4	0	1	95	5	53	31	11
⑦ 行事の振り返りによって、行事を通しての成長が感じられた。	94	6	51	30	14	5	0	1	94	6	51	30	14
⑧ 行事の振り返りによって、行事を通しての課題が明確になった。	94	6	49	30	16	5	0	1	94	6	49	30	16
⑨ 行事を通して、〇〇高校が目指す生徒の姿に対する理解が深まった。	94	6	47	28	20	4	2	0	94	6	47	28	20
(%)													
⑩ 行事の目標を事前に知する方法として特に役立つと感じるもの（複数回答）	1	2	3	4	5								
1 実施要項の掲示 2 実施要項の配布 3 Classi配信 4 事前学習 5 担任による口頭説明	要項掲示	要項配布	配信	事前学習	口頭説明								
	31	39	46	12	49								

表16 研究実践後質問紙調査の相関係数

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
①									
②	0.73								
③	0.75	0.80							
④	0.57	0.74	0.70						
⑤	0.60	0.64	0.63	0.61					
⑥	0.56	0.57	0.63	0.60	0.83				
⑦	0.56	0.62	0.58	0.62	0.80	0.80			
⑧	0.52	0.63	0.61	0.59	0.82	0.81	0.84		
⑨	0.56	0.58	0.61	0.58	0.55	0.56	0.66	0.65	

※相関が強い0.7以上の項目を網掛けで示す。

そして、「⑩行事の目標を事前に知する方法として特に役立つと感じるもの」（複数回答可）の質問では、「担任による口頭説明」と答えた割合が49%、「Classi配信」が46%、「実施要項の配布」が39%だった。注目は、「Classi配信」が口頭説明や実施要項の配布とともに上位に位置することである。研究協力校では、生徒は日々の教育活動でClassi配信に慣れており、今回の目標共有でもスムーズな活用が見られたと言える。また、教員にとっても電子データによる一斉配信は業務改善につながる。以上の結果と状況からは、目標共有手段として、教員による口頭説明や実施要項の配布と組み合わせるなどし

てICTを活用していく必要性について大きな示唆が与えられる。

表16については、「①行事の目標を事前に知ることによって前向きに取り組めた」と、「②行事の目標を事前に知ることによって、行事で持つべき意識が明確になった」、「③行事の目標を事前に知ることによって、行事での取り組み方に良い影響があった」の二つに強い相関が見られた。生徒は前向きに行事の目標を理解することで、行事に対する意識を向上させ、行事への取組に対して良い影響を実感するようである。また、「⑤行事の振り返りアンケートによって前向きに取り組めた」と、「⑥行事の振り返りによって、行事を通しての学びが理解できた」、「⑦行事の振り返りによって、行事を通しての成長が感じられた」、「⑧行事の振り返りによって、行事を通しての課題が明確になった」の三つにも強い相関が見られた。生徒は前向きに振り返りを行うことで、行事での学びの理解や成長、課題意識の明確化に対して良い影響を実感するようであることが分かった。

5 研究のまとめ

本研究では、開発した学校行事改善ツールの実践を通して、三つの学校行事で担当教員及び担当組織が改善案を出すことを支援できた。その改善案は、学校経営計画及び生徒の振り返りに表れた課題を根拠として、学校が育てたい生徒の姿をより目指す案となった。特に、創立記念行事の改善案では、今年度は校外活動として実施された内容が、目標とした校訓の理解の浸透には結び付かない内容だという抜本的改善の視点に立ち、次年度に向けてOBを招いた講演会の企画が検討された。この事例は、育てたい生徒の姿を出発点としたからこそ生徒の成長につなげる本質的な改善案となった好例と言える。

さらに、今回の研究を通して、行事を経験するごとに学びや意識に深まりが見られた生徒の振り返りの記述（表17）も確認できた。学校祭では抽象的、感情的だった記述が、その後の行事の振り返りでは、目標に対する具体的な達成状況や課題意識、今後の見通しを示す記述に深まっていった。

表17 行事を経験するごとに学びや意識に深まりが見られた生徒の振り返りの記述

	学校祭（6月）	創立記念行事（10月）	防災訓練（12月）
生徒A	リレーや長縄などの協力する場面では、クラスの人たちとしっかり協力することができたと思いました。友達みんなと、他の人たちの応援を全力ですることができました。とても良い体育祭で、思い出になりました。	時と場を考えると身の周りを見ながら、適切な行動をとることができました。時間が、帰り少しギリギリになってバスに乗ってしまったので、今後はもう少し時間に余裕を持って行動したいです。	場所によって災害時に取るべき行動が変わってくることや、自分の住んでる付近のハザードマップを確認する事がとても大切なことだと分かった。最近地震も多かったり、大きな地震が想定されていたりして不安なので、しっかり話を聞こうと思って集中して聞いた。今まで1度もハザードマップで確認などをしたことがなかったけど、大きな地震は生きているうちに経験する可能性が高いので、確認しようと思う。
生徒B	例年通りの北嶺祭ではなかったけれど、文化祭では自分の仕事を全うできました。そして自分たちの企画でみんなが楽しんでくれて嬉しかったです。体育祭では思うような結果ではなかったので来年リベンジしたいと思います。	いつもと違う環境の中でこれまでより友達との関わり方が良くなった。これから自分らしくいることができると思う。コミュニケーション力が成長した。時間がなくて自分が乗りたいアトラクションに乗ることが出来なかったのが朝早く行くなど時間を考えて行動したかった。	これまでそれほど災害について意識はしてこなかったが、熱海の土砂災害を受けとても身近に感じました。この講座でもくわしく説明してもらい災害の危険やとるべき行動を学びました。今回の講座を通して私は自分たちにできることをしようと決めました。ここで学んだ事を家族に話し、これから起こるかもしれない災害のため準備します。今回の経験を踏まえて私は、祖父母と一緒に暮らしているのが警戒レベル3の時点で避難開始を行い災害時に備えたいと思った。

生徒は行事を経験するごとに、より学びを深め、より成長を実感できるようになっていると言える。一つの行事だけではなく、複数の行事を繰り返しての長期間における記述の深まりからは、研究協力校の学校経営計画（表10）の「主体的に探究し学び続ける」姿（教育目標イ）、「思考力・表現力、探究意欲を醸成する」姿（取組目標イ）を見取ることができた。また、次年度に向けた学校行事の改善を図る取組の過程で生徒の成長を確認できたことは、PDCAサイクルの確立そのものが生徒の成長に寄与することを示していると言える。

以上の成果から、学校行事改善ツールの実践でPDCAサイクルの確立が促されたことによって、次年度への行事の改善を図ることができたと同時に、生徒の目標達成状況を確認することができたと結論付けたい。

学校行事は、特別活動を構成する一つである。特別活動は、集団活動を通して生徒の資質・能力の育成を目指す教育活動であり、中でも学校行事は、よりよい学校生活を築くための体験的な活動である。本研究では、学校行事が生徒の成長を強く認識できる活動であることを確認した。そのような学校行事の改善に取り組むことは、各学校がどのような生徒の成長を目指すのかについて教員や生徒が理解を深め、教育活動全体の質の向上を図る好機となる。本研究で示した学校行事改善ツールは、あくまで学校行事改善のための手段の一事例である。各学校がPDCAサイクルの確立から学校行事の改善を目指すことを契機として、教育活動全体で生徒の成長が見据えられることを期待したい。

終わりに、本研究は単年度での実施であったが、学校行事の改善案が次年度にどのように生徒の成長に結び付いていくのかを複数年度に渡り検証することによって、本研究の成果は更に深めていけると考えられる。

【引用文献】

- ¹ 教育新聞「新時代の授業や行事を望む声、コロナ契機に 教育新聞読者調査」
[<https://www.kyobun.co.jp/close-up/cu20210101/>]（2021年4月14日取得）
- ² 京都新聞「学校行事、安易に中止にしないで」生徒も、学校もコロナ禍で思い複雑
…苦渋の決断」[<https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/320273>]（2021年5月8日取得）
- ³ 文部科学省「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中教審第228号）」
[https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm]（2021年2月7日取得）
- ⁴ 同上書（2021年2月7日取得）
- ⁵ 文部科学省『生徒指導提要』，教育図書，2011年，p32
- ⁶ 同上書，p41
- ⁷ 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成三十年告示）解説 特別活動編』，東京書籍，2019年，p87
- ⁸ 同上書，p97
- ⁹ 同上書，p97
- ¹⁰ 小林一也、熱海則夫『学校行事』，株式会社ぎょうせい，1995年，p86